1stRip
PDF作成HF：PDF_[結果出力4C_凸版下版]白_T]
PDF作成Date：10/17/2023 1:21:31 PM

1989年組 座談会

並里成が新会社を設立! 次世代へつなぐ"GOODPASS"

今年5月、並里成（群馬）が株式会社fantasistaを設立した。並里と2人で代表取締役を務めるのが、能代工（現能代科学技術）高の元キャプテン渡部敬祐氏。さらに同校元マネジャーの新岡潤氏を加え、3人で新プロジェクト「GOODPASS」を始動。今回は座談会形式で、活動に込めた思いを語ってもらった。また、オフィシャルパートナーとして契約を締結したRCホールディングス株式会社の会長、上野翼氏（福岡大附大濠高出身）にも話を聞いた。

◯取材・文／中村麻衣子（本誌編集部）　◯写真／山岡邦彦

それぞれに経験を積んだ〝今〟同級生3人で新プロジェクトを始動

――5月に並里選手が株式会社ｆａｎｔａｓｉｓｔａを設立し、渡部さん、新岡さんと新プロジェクト「ＧＯＯＤＰＡＳＳ」をスタートさせました。その経緯から教えてください。

並里　もともと、アメリカから帰国して栃木ブレックスに加入した頃（２００９年）から、渡部とはよく食事に行く仲でした。当時から『将来、一緒に何かしたいね』と話していて、それまで僕はできるだけ長くバスケットを頑張る、渡部はビジネスの道で頑張ると。時が来るまで、それぞれの道でお互い修業を積もうという感じでした。

渡部　それが15年ほど前の話です。今の（並里）成は、良い意味でプロ選手としてのキャリアの後半戦に入ったのかなと。もちろん、今後も長く現役で頑張ってもらいたいですが、これまでの経験やノウハウなど、今の成には人に伝えられるものがたくさんあります。また、僕はステップアップするために20代の頃に打ち込んでいたものを辞めて、自分で会社を経営するという人生第二章を歩んでいるタイミングだったので、今回のプロジェクトをやるなら〝今〟だなと思ったんです。それで会社を作るにあたり、僕が高校時代から一番信頼している新岡を仲間に引き入れました。それに今、成も新岡も各々の分野で活躍していて、3人とも別の仕事で生計を立てているので、言ってしまえばこの「ＧＯＯＤＰＡＳＳ」自体で生きようとは思っていない。ただ、だからこそ自由にいろいろチャレンジができるのではないかと考えています。

――「ｆａｎｔａｓｉｓｔａ」という会社名に込めた思いを教えてください。

並里　高校時代から月バスなどで「ファンタジスタ」と呼ばれるようになり、観客を魅了するプレー、ファンタジーを感じさせる選手ということで、自分でもすごく気に入っています。「ファンタジスタ」という言葉で、逆に自分が出来上がったような気がするんです。それで会社名にしました。

新岡　こんなふうにニックネームがあるのも、バスケ選手では成くらいですよね。当時は能代工高でも、成のまねをして練習中にハイソックスを履くのがはやったくらいです。かなり影響を受けました。

並里　高校時代、（福岡第一高の）井手口孝先生から「お前が思うよりお前は影響力があるから、ちゃんとしなさい」とは言われていました。僕はよくシャツで汗を拭いておなかが丸見えになっていたんですが、それも禁止されました。

――ＧＯＯＤＰＡＳＳのプロジェクトでは、どのような活動を行う予定ですか？

渡部　子どもたちへの英語教育、メンタルトレーニング、動画コンテンツ、セカンドキャリアのサポートという4つの柱を考えています。そのコンセプトとして、英語やメンタルトレーニング、動画コンテンツについては、成が「あのとき、ああしておけば良かった」と思うことを、子どもたちに伝えていきたい。〝後悔〟という言葉で表すとネガティブに聞こえるかもしれませんが、成自身の〝後悔〟をポジティブに変換して、子どもたちの未来の助けになるような〝良いパス〟を出したいと思っています。

並里　例えば、僕がスラムダンク奨学金で留学したときに一番苦労したのが英語でした。ヘッドコーチが何を言っているかも分からないし、ガードとしてそれをみんなに伝えることもできない。毎日勉強し続けても当時は聞き取れるようになる気がしなくて、先が見えない状況でした。少しできるようになるまで約半年かかったので、英語はもっと早くからやっておけば良かったと